

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (国際協力学)	氏名 (Candidate Name)	MOHAMMAD AJMAL KHURAM
学位授与の要件	学位規則第4条第① 2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) Teacher Motivation and Job Satisfaction: A Case Study of Kabul, Afghanistan			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee) 主査 (Name of the Committee Chair) 教授 吉田 和浩 審査委員 (Name of the Committee Member) 教授 日下部 達哉 審査委員 (Name of the Committee Member) 教授 堀田 泰司 審査委員 (Name of the Committee Member) 教授 高橋 与志 審査委員 (Name of the Committee Member) 石田 洋子 (元人間社会科学研究科教授)			
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation) 本論文は、離任率の高さが問題となっているアフガニスタンの首都カブールで学校教員の職業満足度を高めるための主要な動機づけ要因について、教員の選好をもとに明らかにしたものである。 論文の構成は以下のとおりである。 第1章導入では、動機づけに係る主要概念としてマズローの要求階層説、ハーズバーグの動機づけ・衛生要因論に依拠して本論の基本概念となる動機づけに関連する理論を確認、第2章の文献考察では、教員の動機づけ、内発的、外発的動機づけ、職業満足度、またこれら動機づけと職業満足度の関係についての文献を渉猟した上で、既存研究に欠落していた視点を踏まえつつ、(1) 教員の離職に繋がる不満足要因を同定する、(2) 教員の職業満足度を増す動機づけ要因を判定する、の2点を研究目的に設定した。 第3章ではアフガニスタンの教育制度、カリキュラム、予算、就学状況、学業成績、設備、教員訓練、教員の勤務環境等、タリバン政権前の状況について詳述。第4章では研究方法論について述べている。 第5章では質的調査として、対象とした378人の教員のうち教職に不満を持っている125人の回答から収集したインタビュー結果のコード化を経て7つのテーマとして、給与水準の低さ、勤務負荷、専門教科外の科目担当、雇用の不安定性、厳しい勤務環境、昇進及び能力強化機会の欠如、他の職業と比較した教職の地位の低さについて分析した。 第6章の量的分析では、同じ378人の教員から得たデータを用いた無作為コンジョイント分析によって内発的・外発的動機づけの要因として、学級規模を小さくし、居住用の土地を提供し、給与を上げることで職業満足度が増すことを示した。 第7章ではこれらの分析結果に考察を加え、第8章で結論を述べた。明らかになった動機づけ政策の選択肢はそのまま政策に活かせるとは限らない。アフガニスタンの財政状況、政権の民主化、国際社会や地域社会の支持を得られる国内環境が政策実施の条件となることを指摘した。 本論文は、先行研究で欠けていた教員の実際の動機づけニーズを調査したこと、質的データを主題分析した結果と、量的分析としての無作為コンジョイント分析の結果を総合的に分析したこと、教員の様々な属性（教育水準、性別、年齢、所得等）を踏まえた分析を行ったことから、新たな学術的、実践的示唆を与えるものとして、高く評価できる。 以上の審査の結果、本論文の著者は博士（国際協力学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。			
令和 5年 8月 3日			

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)